

# 救急科



# 救急科から救命救急センターへ

3つの部門に再編

## 【1】内科救急科

内科疾患を主に担当する

## 【2】災害救急科

DMATや院内の災害対策を担当

## 【3】外傷救急科

外傷疾患を主に担当する

救命救急センターの機能を明確にして、わかりやすくする目的  
診療内容については大きな変化はなし

# 救急における集中治療医学

救急疾患は多岐に渡り、病態としてはショックを扱う事が多い。  
そのために集約的な治療を必要としている。

救急外来での初療から集約的な治療、その後リハビリと治療は進む

例えば

重症外傷におけるダメージコントロール手術

心停止からの蘇生と脳機能回復

急性薬物・化学物質中毒

# ラピッドレスポンスカー

	2023.4	2023.5	2023.6	2023.7
出動件数	32	25	36	43
当院搬送患者数	19	11	24	25
他院搬送患者数	2	4	2	7
キャンセル	11	10	10	11
キャンセル率	34.4%	40%	27.8%	25.6%

# 外傷救急診療

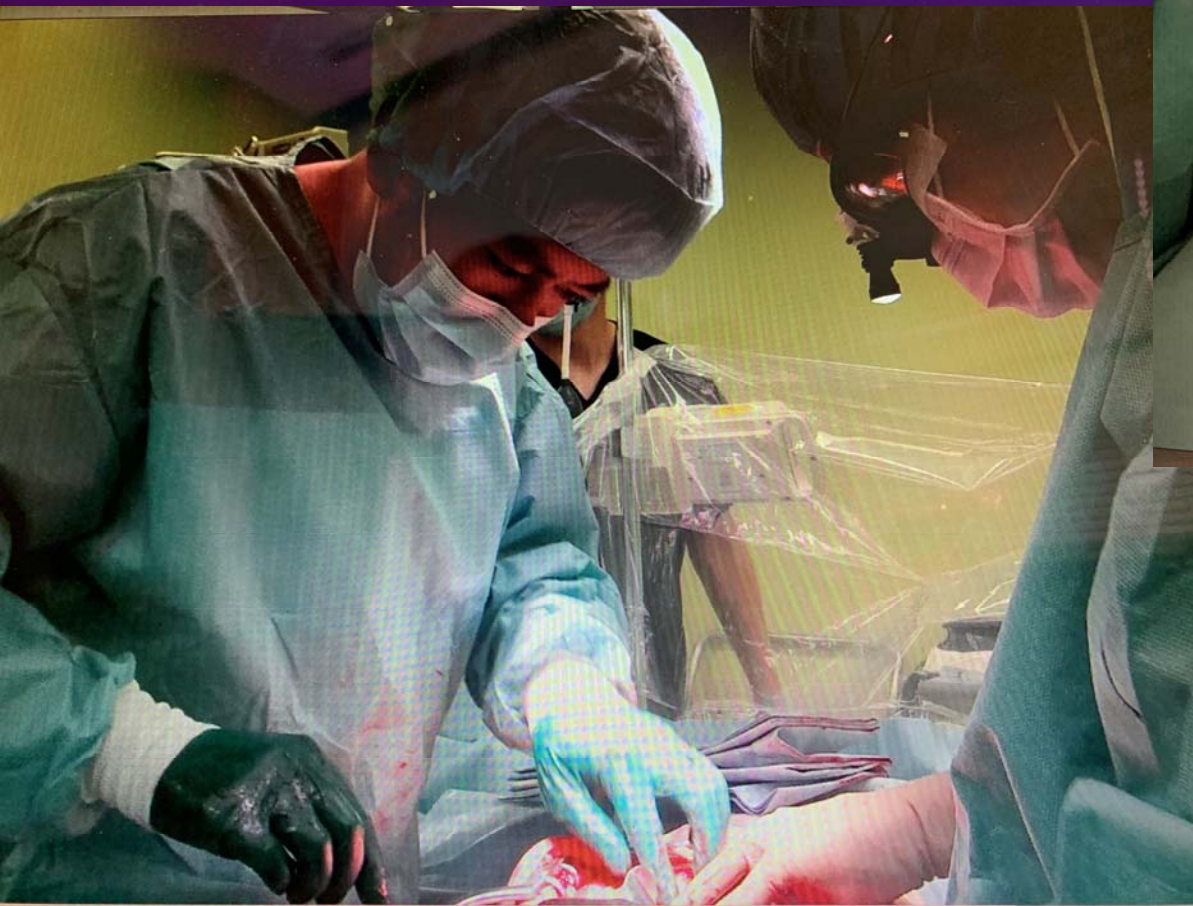
## 【DCS】

damage controlという言葉は、もともと、戦闘により損害を受けた艦船を沈没させずに最寄りの軍港に帰すための応急処置を指す軍事用語  
これが転じて、救命を目的とした外傷治療戦略を  
damage control surgery (DCS)と呼ぶようになった。

DCSは、蘇生目的の初回手術、全身の安定化を図る集中治療、  
修復・再建手術、の3つの要素からなる。

「外傷死の三徴」の存在などから、その適応を判断する。

# 救急外来でのDCS



# HYBRID EMERGENCY ROOM (ハイブリッドER)

救急外来にてIVR-CT(アンギオとCTを組み合わせた装置)を設置し、診断と治療を同時並行で行うシステムです。重症の患者様にとってはベッド移動の際の振動や、部屋移動にかかる時間が大きな負担となり、出血を助長して状態を悪くしてしまいます。